第2回 習志野市旧庁舎跡地活用検討委員会 議事録

【日 時】令和元年5月27日（月曜）10:00～正午

【場 所】市庁舎グランドフロア 会議室A B

【出席委員】吉田 恵美委員長、松丸 義明委員長代理

色川 一紀委員、高山 貴子委員、江澤 和成委員、鈴木 とし江委員、

三代川 磐委員、那須 庸仁委員、弓立 理恵委員 脇田 雅史委員 以上10名

【欠席委員】なし

【事務局】資産管理室 室長 遠藤良宣

資産管理課 課長 早川誠貴、主幹 仲野元

主任主事 河北誠仁、主事 小山幸子

【傍聴者】10名

【次 第】

1. 議事

(1) 第1回検討委員会における委員の意見について

(2) 基本的理念の検討について

《会議》

1. 議事

(1) 第1回検討委員会における委員の意見について

資料1「第1回検討委員会における委員の意見について」に基づき、事務局から説明を行った。

(2) 基本的理念の検討について

資料2「基本的理念の検討について」に基づき、事務局から説明を行った。

2. ワークショップ形式による意見交換

5人ずつの2グループに分かれて、「跡地活用に関して自由にアイデアを出す」をテーマに、約60分間グループごとに意見出しを行った。

3. 各グループ発表

【Aグループ】

松丸委員長代理

現在の旧庁舎の状況については、近隣が活性化されておらず、人があまりいないというさみしいイメージです。また、習志野市は音楽で有名だという割には、演奏できる場所が少ないという意見がありました。そこで、何が必要か意見を出し合いました。

・多世代で楽しむ空間が必要、人とふれあい、働くことが大事。

- ・おいしいものがあると人が集まる。
- ・ネットワークが必要。
- ・市民ではない人を取り込む。
- ・京成津田沼駅に下車してもらいたい。
- ・市内イベントを継続的に盛り上げることができるもの。
- ・若い世代を呼び込みたい。(市内3大学の学生とコラボレーション)
- ・水戸市で実施しているM—S P Oについて(事例紹介)
- ・人が集まれば、エネルギーが発生する。
- ・人が動けば、経済的効果が生まれる。

以上の意見が出ました。

「水戸ど真ん中再生プロジェクト」という、脇田委員にご紹介いただいた事例を皆さんにもご紹介いたします。スポーツやビジネスといったものを一つの拠点に集めて、色々なことをやっていきたいと思います。人が集まりさえすれば、何かエネルギーが発生するのではないかということです。こちらは比較的、お子さんや若者が中心の施設となっているのですが、習志野市に関して言うならば、今後、高齢者が増えていく中で10年後を語ると、先ほどの資料にもありましたとおり、10年後に団塊の世代ジュニアが高齢者となった時、習志野市に留まっていただけの策はないか。年金だけでは厳しいということがもしあるとするならば、65歳以上の方も習志野市で仕事をしたり、起業するでもよいと思います。65歳以上は「お年寄り」ではなく、まだまだ稼ぎ手であり、税収の確保につながるのではないかと思います。大学生も習志野市で仕事を探し、65歳以上の方も習志野市でまだまだ仕事をする。そのような意味で、両者がコラボレーションできるような空間ができればよいのではないかと思います。ただ、それは現時点で習志野市が抱えている問題であり、10年後はどのような問題が起きているのかはわかりません。そこで、この検討委員会は、10年を節目として10年間のプロジェクトとしてできることを考えて、また10年後の世代の人たちに、その時習志野市に足りないものを考えていただいて、そこでまた作り替えるのもよいと思います。ですから、旧庁舎を更地にして、うんとお金をかけて大きなものを一つ建てて終わり、というのではなく、10年後にリセットできるような仕組みもあるのではないかと思います。

また、絶対避けなければならないものとして、居住区だけの空間となってしまうのは、やはりもったいないと思います。市内地図をご覧いただければおわかりになるとと思いますが、旧庁舎跡地は習志野市のど真ん中ですから、その部分を「居住区だけ」というものにしてしまったり、ただの「広い公園だけ」にしてしまうのはもったいないという意見になりました。

そのあたりを踏まえると、人がどうにかして集まる、留まる、何か発生させる、つながりができる、そのような空間になるとよいのではないかと思います。近隣市の方にも訪ずれていただけるような何かができるとうい。先ほどから「何か」ばかりで、具体的な話ができているわけではないのですが、今日の会議では「何か」で十分なのではないかと思っております。

【Bグループ】

吉田委員長

ざっくばらんに話をしていましたが、発表にあたっていくつかキーワードをまとめてみましょうということになりました。

まず「大学」です。理系の大学が3つもあるということで、この恵まれた条件を活かすべきではないかと思います。

次に「子育て」です。全国的に少子高齢化が進んでいるものの、習志野市には小さいお子さんがたくさんいますので、その世代に対する手当が重要ではないかと思います。

また、音楽の話が習志野市は必ず出ますが、音楽の施設が充実しているのに比べて、美術の面では弱いのではないかという意見がありました。美術の面も盛り上げていくのが文化ではないかと思い、「文化」というキーワードも入れさせていただきました。

続いて「産業」です。皆さんは習志野市文教住宅都市憲章をご覧いただいていると思いますが、50年前、高度経済成長期にこの憲章を作ったこともあり、船橋市と千葉市にはコンビナートがたくさんあるのに、習志野市にはありません。その分住みやすい街にはなっているものの、産業の法人からの税収が厳しいという面があります。産業を活かして、住民税だけではなくて法人からも税金を納めていただくということは財政のプラスになるのではないかと思い、「産業」というキーワードを設けました。

そして「防災」です。他と関わりが薄い部分にはなるとは思いますが、ここ最近の傾向として、何年かに一度は大きな災害が起こってしまう現状ですので、防災の面は無視できないと思います。

すべてが関わるわけではなくて、例えば「大学と産業」について言えば、先ほどの水戸の事例の中にもありましたが、コワーキングスペースがあったらよいのではないかと思います。私の経験談から申し上げますと、習志野市はちょうどよいシェアオフィスがなく、現在幕張に契約をしていますので、そのようなニーズもあると思います。あとは大学の教授や生徒が共同で研究できるような場所も必要だと思います。習志野市は十分に産学連携が進んでいるという話もありましたが、その情報を知っている人と知らない人の差ができてしまっているのです。仕掛けづくりをしていけば、もっと盛り上がるのではないかと思います。

「大学と子育て」という意味でも、千葉工業大学の学園祭などは、小さいお子さんも楽しめる内容となっていますが、大学生と小さいお子さんが交流していくという、そういった「交流」というものが大きなキーワードとなるのではないかと思います。

イメージとしては、広場があれば色々なことができるのではないかと思います。その広場の周りに複合的な機能があるものができれば、望んでいる方向に近いのかと思います。交流という意味では、カフェが入ってほしいと思います。コーヒーなどが飲めると、人が集まりやすくなるというのは皆さんご承知おきかだと思います。

「交流」というものが、一番大きな柱という中で、それぞれ特色を活かして、音楽を軽視するわけではなく、美術の面でも力を入れていくことで、より豊かな習志野市になっていくのではないかと思います。Aグループとも話が重なっていると思いますので、以上です。

4. 発表後の感想等

吉田委員長

最後に委員の皆様から一言お願いいたします。

鈴木委員

どちらかというと旧庁舎周辺は、そんなに活性化はされていないと思います。新しい市庁舎はありますが、市民からしたら「住宅地域」という感覚しかなくて、さみしい印象です。ですから、

できればこの跡地については市民の方はもちろん、市外の方にも足を運んでもらえるような場所になればうれしいです。先ほど脇田委員に事例をご紹介いただき、素晴らしいものは取り入れていくべきだと思います。鷺沼に住む者として、ここは城址公園もあり、人が集まるということが大事です。子育てということもありますが、松丸委員長代理もおっしゃったように、65歳以上の方は家の中に閉じこもっているだけではなく、人生90歳時代ですから、もっと働くのがよいのではないかと思います。どうぞ、65歳以上を活用してください。年金だけでは暮らしていけないと思っております。

色川委員

都市計画的な見地から申し上げたいのは、習志野市はコンパクトシティであり、鉄道駅がかなりあることから、様々な拠点がそれぞれにできていますので、ネットワーク化することが非常に大事だということです。先ほどご説明いただいた都市計画道路は、これから非常に重要となっていくのではないかと思います。この跡地のポテンシャルというのは、中心性が非常に高い場所であり、人の色々な営みが集まってきて、市民がどんどん発展させていくような機能にすべきではないかと思います。上位計画でも既に色々ありますが、「文化」というのはひとつのキーワードなのではないかと思います。色々な意味での文化を、市民が楽しくイキイキと育てていくという「仕掛け」があれば、習志野市旧庁舎の跡地利用としてはよいのではないかと思います。その意味で、補完する都市機能をどのようにするかということが、行政だけではなかなかうまくいかないので、民間の力を活用して理念を実現していき、市民に協力していただきながら実現していけばよいのではないかと考えております。まちづくりについて、周辺の拠点市街地と連携するような形の中で、市民や民間の力を活用してはいかがかと思われました。

脇田委員

私の所属しておりますオービックシーガルズのOBが、Bリーグバスケットボールチームである「茨城ロボッツ」の経営をしており、先ほどご紹介させていただいた「水戸ど真ん中再生プロジェクト」に加わって色々なことをしているということを知り、面白そうだと思っていたときに、本検討委員会のお話をいただきました。ひとつの参考になればよいと思い、これが答えではないと思っておりますが、習志野市に合ったものをご紹介させていただきました。そんなに遠くはないので、見学に行く機会があればよいとも思っております。水戸がシャッター街となっていたことにより、そこを再生しましょうということで、水戸出身でグローヴィス経営大学院の堀さんという方と茨城ロボッツの力でなんとかしようということで、色々プロジェクトを考えて、たくさんの方と関わりながら、M—SPOというものを作りながら、まちづくりをされているのがおもしろいと思いご紹介させていただきました。10年単位ぐらいでものごとを考えていって、10年先のことは10年後に考えればよいのではないかとということです。50年先を考えていくよりも、10年先を考えるのがよいと思われました。M—WORKについては、空きビルをリノベーションして、若者の起業を促進する取組をされておりました。Aグループで意見が出ましたが、若者だけではなく65歳以上の方にも、もっと起業していただくのがよいのではないかと思います。また、30年後、団塊の世代ジュニアが広がっていくという話がありましたが、ずっと何かを仕掛けて生き続けることができさえすれば、もっとまちが活性化していくのではないかと思います。このような活動をきっかけに、皆様が笑顔になればよいと思っております。習志野に来れば来るほど、魅力的なまちだということを感じております。はたから見ると魅力が

わかったりしますが、中にいるとなかなかわかりづらかったりします。そういったことが転がっているまちだと思いますので、皆さんも元気になり、そこに来る人も元気になるという場所にしていけたらと思います。

弓立委員

私は市内で色々なイベントを行っていることについて発言しましたが、Bグループの発表の中で、「大学」というキーワードがありまして、私もイベントで大学生と関わりをもった中ですごく感じていることは、彼らにはすごい力があるということです。大学生の力をフルに活用できるような、そういうものを作っていければよいと思います。例えば起業であったり、大学生主催のイベントであったり、そういうことをしていく中で、大学生達が習志野市を好きになってくれて、就職した後も習志野市に住んで結婚して子供を産んで、というような流れが生まれれば、習志野市にとってもすごくよいことだと思います。「大学生」というのがひとつのキーワードになると思いました。

三代川委員

習志野市は「防災」という面ではとても安全で安心な街だと思いますが、経験がないだけに、実際は災害に弱いです。その面では、対策を十分にとってもらいたいということと、旧庁舎跡地は、防災の拠点として備えておくことは大事なことだと思います。

江澤委員

両グループとも、「多世代で交流」ということが共通していたと思います。その切り口として、産業活性化だとか、大学と連携するだとか、あるいは子育てだとか、そういった形で色々なやり方がある、というところに本日は行き着いたと思います。習志野市内にある大学と産業をつなげて、地域が活性化するような施設にして、子育て世代のママがたくさんいらっしゃるので、ワーキングスペースなども加えて多世代が交流できるようなものがよいのではないかという発言をさせていただきました。美術やスポーツなど、非常に興味深いと思いました。次回以降も具体的なお話ができるとよいと思っております。

那須委員

本日の内容と矛盾してしまうのですが、この会議に入る前に、旧庁舎跡地は何もない広場にしまってもよいのではないかと考えておりました。ああしようこうしよう、そのために施設を作ろうというのは理解しております。何もしないで、そこから生まれてくるものを大事にするというような方向で考えることもあると思っていましたが、委員の皆さんの発言を聞いて、改めて考えていこうと思います。

高山委員

第2回の会議を迎えて、この習志野市の中心的な土地をどのようにすればよいのか、ということをととてもよく考えるようになりました。習志野市のためというのと、やはり「交流」がキーワードとなってくると思います。交流が大きなくりとなっておりますので、大学、子育て、65歳以上の方も大事であり、そして産業の活性化、すべてが活性化につながれば、多世代、他の地域の方にも来ていただけるのではないかと思います。まず、交流、そして習志野市の魅力を出せば、

楽しいまちづくりとなり、そして楽しい跡地になるのではないかと思います。

吉田委員

私は水戸で仕事をしていた時期もあり、また、「水戸ど真ん中再生プロジェクト」に参加されたグロービスの堀さんとも学生時代よりお付き合いさせていただいております。SNSを通してですが、堀さんが水戸市長とともにリーダーシップを発揮されてプロジェクトを達成されていらっしゃるのを拝見しておりました。水戸は大変歴史が深く、色々な利害関係者もいるという難しいエリアですが、強力なリーダーシップを発揮されているなと思っておりました。全員の意見を集約させるのが必ずしも正しいのかどうかということも、今後、皆さんのお話の中で、どういったイメージをもっていくのかというかたちで進めていけばよいのではないかと思います。本日、委員の皆様には、具体例を出していただきありがとうございました。本日の内容は改めて事務局の方で整理していただき、次回につなげていただければと思います。

事務局

色々な意見を出していただき、ありがとうございました。発表の中で色々共通事項がありましたが、事務局の方で整理しましたら、両グループの共通事項がおわかりいただけると思います。文字に起こしたものは議事録として公表したいと思います。その内容を次回の会議で磨き上げていきたいと思います。本日の雰囲気を見ていると、会議の回数を増やす必要があると思いました。次回の会議についてですが、前は8月と申し上げましたが、7月を目安に考えていただければと思います。先を見通すために、2か月に1回くらい、7月、9月、11月、1月という、2か月おきの開催にしていければと考えています。これは委員長、委員長代理と相談しながら進めさせていただければと思います。早めにご連絡させていただきたいと思います。

吉田委員長

会議の進め方について2か月に1度ということで進めてよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし

吉田委員長

ありがとうございます。それでは以上で本日の会議を終了いたします。お疲れ様でした。

以上